

新潟市口腔保健福祉センター年次報告（概要）
（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

1 利用実績

(1) 急患診療

	診療日数	利用患者数	一日平均患者数
令和2年度通年	73日	576人	平均 7.9人
平常の休日	44日	239人	平均 5.4人
連休及び1日飛び休日	22日	211人	平均 9.6人
お盆（平日）	3日	44人	平均 14.7人
お盆（休日）	0日	0人	平均 0人
年末	1日	32人	平均 32.0人
年始	3日	50人	平均 16.7人

性別年齢別患者内訳

	男	女	計
6歳未満	39	16	55
6～17歳	27	13	40
18～64歳	220	151	371
65歳以上	59	51	110
計	345	231	576

(人)

年間のべ患者数は576人で、前年の1075人に比較し大幅に減少した。一日平均患者数は7.6人で前年の13.6人に比べて大幅に減少した。新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる。特に県外の利用者は少なく、年間で8名だった。年齢別内訳は、ほぼ例年通りで19歳～64歳が64%であった。疾病別では、う蝕、外傷、歯周疾患の順が多かった。三次医療機関への紹介数は9件だった。

(2) 特別診療

	診療日数	半日診療回数	利用患者数	半日平均患者数
令和2年度通年	193日	241回	1593人	平均 6.6人

性別年齢別患者内訳	男	女	計
6歳未満	36	4	40
6～17歳	257	105	372
18～64歳	647	407	1054
65歳以上	61	66	127
計			

(人)

障がい別患者内訳	(人)
知的障害	557
発達障害	560
精神疾患	35
神経難病	19
染色体異常	165
感覚障害	3
認知障害	56
四肢麻痺	190
その他	8

年間のべ患者数は1593人で、昨年の1733人と比べて減少した。特に、新型コロナウイルス感染症の影響で、4月、5月の利用者が少なかった。年齢別内訳は、ほぼ例年通りであ

った。疾患別のべ患者数は、例年同様、う蝕と歯周疾患がほとんどであった。障がい別患者内訳は、知的障がい、発達障がいがほぼ同程度で多かった。

往診（摂食嚥下評価）は、対象施設は介護老人保健施設「緑樹苑」、特別養老ホーム「黒埼の里」、特別養護老人ホーム「まつはま園」、特別養護老人ホーム「ぼんだい桜園」、介護老人保健施設「白根ヴィラガーデン」の5施設を対象とし、月2回往診を行った。年間のべ往診患者数は81人で昨年の77人とほぼ同じだった。

2 利用料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

別紙参照

3 総括・自己評価

急患診療、特別診療ともに大きなトラブルはなく、業務を行うことができたが、今年度は特に、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら診療を行った。

急患診療は、新型コロナウイルス感染症の影響で年間を通して、利用者数が大幅に減少した。特別診療では、特に4月、5月は新型コロナウイルス感染症対策を理由にしたキャンセルが多かった。今年度の一次、二次及び三次医療機関への紹介数は、それぞれ7件、0件、16件、合計23件であった。今後も、他医療機関との連携体制の構築を図り、二次医療機関としての役割を果たしていきたい。

往診（摂食嚥下機能評価）は月2回実施し、1回の往診につき2から3回、嚥下内視鏡（VE）を用いた嚥下評価を行っている。地域で摂食嚥下障害に対応できる人材育成を目的とした往診時の歯科医師の帯同は、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施しなかった。

口腔健診・研修事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「障がい者の口腔衛生管理に関する研修事業」として事業計画を変更した。地域活動支援センター、就労継続支援B型事業所の職員を対象とした集合型の研修会と障がい者福祉施設の現状等について意見交換を行った。参加者は5名であった。さらに、地域活動支援センター、就労継続支援B型事業所、生活介護事業所、グループホーム、計214施設を対象に、研修会資料を抜粋した障がい者の口腔保健に関する啓発資料を送付した。

口腔ケア研修事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、歯科専門職が施設に訪問して行う、施設職員を対象とした口腔ケア研修会は中止とした。訪問看護事業所・訪問介護事業所の施設職員に対する集合型の口腔ケア研修会は、新型コロナウイルス感染症対策として、会場とオンライン配信の同時開催として事業計画を変更して実施した。会場には13人、オンラインでは17名、合計30名の参加があった。参加者の職種は介護職員が22名、看護師が8名だった。オンラインでの研修会は初めての試みであったが、大変好評だった。